

# 第 634 回

## 日本小児科学会東京都地方会講話会

### プロ グ ラ ム

日 時 平成29年2月18日(土) 午後2時00分

場 所 東京女子医科大学弥生記念講堂



#### 世話人

プログラム係	伊藤 康
東京女子医科大学小児科	03(3353)8111 (FAX) 03(5269)7619
会 場 係	伊藤 康
東京女子医科大学小児科	03(3353)8111 (FAX) 03(5269)7619
事 務 局	03(5388)7007 e-mail:jpstokyo-office@umin.ac.jp

#### 次回以降開催予定日

- 平成29年3月18日(土) 東京女子医科大学弥生記念講堂  
平成29年5月20日(土) 東京女子医科大学弥生記念講堂  
平成29年6月10日(土) 飯田橋レインボービル7F  
平成29年7月8日(土) 東京女子医科大学弥生記念講堂  
平成29年9月9日(土) 飯田橋レインボービル7F

# 第634回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題6分、指定発言5分、追加討論3分以内、厳守のこと。○印演者)

第1グループ 14:00—14:35

座長 佐藤 孝俊（東京女子医科大学小児科）

1) 初回の細菌性髄膜炎を契機に診断した側頭骨奇形の1例

○宮川有雅里<sup>1)</sup>、河村 研吾<sup>1)</sup>、武藤 智和<sup>1)</sup>、稻毛 康司<sup>1)</sup>、鳴原俊太郎<sup>2)</sup>、高橋 昌里<sup>1)</sup>  
(日本大学板橋病院小児科)<sup>1)</sup>、(同 耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野)<sup>2)</sup>

細菌性髄膜炎の原因として先天奇形による耳性髄液漏があり大部分が幼児期に発症し反復性髄膜炎のリスクとなる。症例は難聴既往のない6歳女児、急性中耳炎に続く細菌性髄膜炎を機に側頭骨奇形と診断し瘻孔閉鎖術を行った。細菌性髄膜炎の再発なく経過している。難聴がなくても細菌性髄膜炎を診断したら側頭骨奇形を念頭におくべきである。

2) 髄膜炎様症状と腰部血管腫内の毛嚢炎を繰り返した先天性皮膚洞の1例

○上原絵理香<sup>1),2)</sup>、益田 博司<sup>1)</sup>、鈴木 孝典<sup>1),2)</sup>、村上 瑛梨<sup>1),2)</sup>、小川 英輝<sup>3)</sup>、  
小山(若井)ちとせ<sup>3)</sup>、中尾 寛<sup>1)</sup>、窪田 満<sup>1)</sup>、石黒 精<sup>2)</sup>  
(国立成育医療研究センター総合診療部)<sup>1)</sup>、(同 教育研修部)<sup>2)</sup>、(同 感染症科)<sup>3)</sup>

症例は1歳男児。出生時に皮膚陥凹、腰部血管腫を認めたが、脊髄超音波検査で異常所見を認めなかつた。10か月時に発熱、項部硬直、髄液細胞数増加を認めたが、髄液培養は陰性であった。繰り返す血管腫中央部の毛嚢炎も認め、超音波およびMRI検査を行い、血管腫から脊柱管に連続する構造物を確認し、感染の原因を特定した。

指定発言 萩原 英樹（国立成育医療研究センター脳神経外科）

3) 古典型ケトン食療法が著効したLennox-Gastaut症候群(LGS)の1例

○松島 奈穂<sup>1)</sup>、工藤 恵道<sup>1)</sup>、大谷 ゆい<sup>1)</sup>、舟塚 真<sup>1),2)</sup>、伊藤 進<sup>1)</sup>、衛藤 薫<sup>1)</sup>、  
竹下 曜子<sup>1)</sup>、橋本 泰子<sup>3)</sup>、平澤 恭子<sup>1)</sup>、小国 弘量<sup>1)</sup>、永田 智<sup>1)</sup>  
(東京女子医科大学小児科)<sup>1)</sup>、(まこと小児神経クリニック)<sup>2)</sup>、(東京女子医科大学病院栄養課)<sup>3)</sup>

6歳女児。精神運動発達遅滞あり、4歳頃より強直スパズム発作、発達退行が出現し、LGS(辺縁群)と診断した。種々の抗てんかん薬にても発作のコントロール困難であったため、ケトン食療法を4:1で導入した。ケトン指数3:1としたところ摂食可能となり、発作、脳波所見は著明に改善した。同療法の導入時の注意点や対応策を含め報告する。

第2グループ 14:35—15:00

座長 菅波 佑介（東京医科大学小児科）

4) 遺伝子検査で診断し、ヒドロキシクロロキンにて良好な経過をたどっている間質性肺炎の1例

○花岡健太朗、森田 孝次、三輪 義之、渡邊 佳孝、豊田 純也、櫻井基一郎、佐々木 寛、  
城所 励太、村川 哲郎、水野 克己 (昭和大学江東豊洲病院小児科)

1歳男児。小児の特発性間質性肺炎は肺の間質に慢性炎症をきたす疾患群のうち、原因不明のものと定義され、非常にまれな疾患である。今回、KL-6、SP-Dの上昇をきたした呼吸障害の児に対し、気管支肺胞洗浄および遺伝子検査を施行した。間質性肺炎と診断し、ヒドロキシクロロキンでの加療にて良好な呼吸状態を得ている症例を経験したので報告する。

## 5) 腹痛を契機に発見された右側肺葉外分画捻転症の1例

○真弓 怜奈<sup>1)</sup>、竹内 祥子<sup>1)</sup>、草野 晋平<sup>1),2)</sup>、牛牧 史子<sup>1)</sup>、笠井悠里葉<sup>1)</sup>、吉田 登<sup>1)</sup>、細井 賢二<sup>1)</sup>、鳥羽山寿子<sup>1)</sup>、北村 裕梨<sup>1)</sup>、海野 大輔<sup>1)</sup>、大友 義之<sup>1)</sup>、新島 新一<sup>1)</sup>、藤村 純也<sup>2)</sup>、渋谷 智一<sup>3)</sup>、山高 篤行<sup>3)</sup>、清水 俊明<sup>2)</sup>

(順天堂大学練馬病院総合小児科)<sup>1)</sup>、(順天堂大学小児科)<sup>2)</sup>、(同 小児外科)<sup>3)</sup>

4歳男児。発熱と臍周囲の間欠的な腹痛を主訴に救急外来を受診した。背部に叩打痛を認め、腹部造影CT検査で胸部腫瘍と胸水を認めた。肺分画症による肺炎と診断し、抗菌薬治療を開始するも改善なく、血性胸水を認めた。悪性腫瘍を考慮し、胸腔鏡下手術により右側肺葉外分画捻転症と診断した。文献的考察を加え報告する。

指定発言 岡和田 学(順天堂大学小児外科)

休憩 15:00—15:10

感染症だより 15:10—15:30 (講演:15分+質疑応答:5分)

座長 岩田 敏(慶應義塾大学感染症学教室)

砂川 富正(国立感染症研究所感染症疫学センター)

教育講演 15:30—16:30 (講演:50分+質疑応答:10分)

座長 崎田 満(国立成育医療研究センター)

ミトコンドリアと子どもの病気

村山 圭(千葉県こども病院代謝科)

ミトコンドリアは細胞内小器官の1つであり、全身の臓器・組織に存在しエネルギー産生を担っており、その障害は多彩な病態を有する。ミトコンドリア呼吸鎖障害を認めた症例に包括的遺伝子解析を行うと、ミトコンドリア関連の遺伝子だけでなく、ミトコンドリア以外に局在する遺伝子や、染色体異常(特に微少欠失)なども原因として見つかる。また急性脳症や突然死症例においても、ミトコンドリア障害が伴っていることは多い。本講演では、ミトコンドリア障害が起こす子どもの病気を紹介しつつ、ミトコンドリアの奥深さについて話したい。

第3グループ 16:30—17:05

座長 石井のぞみ(総合母子保健センター愛育病院小児科)

## 6) IgA 血管炎に Sever 病を続発した1症例

○白井 陽子、笛本 光紀、星野 廣樹、二瓶 浩一、清水 教一

(東邦大学医療センター大橋病院小児科)

7歳女児。9日前から間歇的腹痛、下痢、血便があり紫斑も出現したため来院、IgA 血管炎と診断。数日後より膝や踵の痛みを訴え歩行困難となった。関節痛は継続し新規紫斑も見られたため IgA 血管炎の関節症状と考えたが発症後1ヶ月半経過しても軽快せず、Sever 病の診断に至り学童の骨端症を再認識した。

## 7) 不明熱精査のための腹部超音波検査が診断の契機となった *Bartonella henselae* 感染症の1例

○横田 麗菜<sup>1)</sup>、深江 俊愛<sup>1)</sup>、加藤 幸恵<sup>1)</sup>、中尾 彰裕<sup>1)</sup>、村野 弥生<sup>1)</sup>、宮崎 菜穂<sup>1)</sup>、中澤 友幸<sup>1)</sup>、望月 幹彦<sup>2)</sup>、足立 拓也<sup>2)</sup>、清水 俊明<sup>4)</sup>

(豊島病院小児科)<sup>1)</sup>、(同 検査科)<sup>2)</sup>、(同 感染症内科)<sup>3)</sup>、(順天堂大学小児科)<sup>4)</sup>

12歳男児。持続する発熱の精査のため、第13病日に当科入院となった。腹部超音波検査で脾腫と多発する腸管膜リンパ節腫大を認め、猫の飼育歴から *B.henselae* 感染症を疑った。高周波探触子の使用により脾臓内に多発性微小結節性病変を認め、後日 *B.henselae* IgM、IgG 抗体価の有意な上昇から確定診断に至った。

8) 多発性化膿性関節炎の1新生児例

○加登 翔太、山形 知慧、野村 滋、高橋 千恵、岡本 陽子、安戸 裕貴、神田祥一郎、  
張田 豊、北中 幸子、岡 明 (東京大学小児科)

母体適応で在胎35週に出生した男児。日齢19に左大腿腫脹が出現し、MRSAによる多発性化膿性関節炎と診断された。緊急で関節の洗浄・デブリドマンを行い、ドレナージとVCM投与を継続した。手術時に左大腿骨遠位端の破壊が見られ、遠隔期の成長障害が危惧された。乳児の化膿性関節炎は早期の診断と外科治療が重要である。

指定発言 岡田 慶太(東京大学整形外科)

第4グループ 17:05—17:40

座長 塩田 曜子(国立成育医療研究センター小児がんセンター)

9) WT1 遺伝子異常を背景とし尿道下裂と両側性Wilms腫瘍を合併した2男児例

○中道 伸彰、富田 理、石橋 武士、鮫島 麗子、玉一 博之、栗本 朋子、高田 オト、  
藤村 純也、清水 俊明 (順天堂大学小児科)

WT1遺伝子は染色体11p13領域に存在するがん抑制遺伝子で、腎や性腺の発生にかかわるとされている。両側性Wilms腫瘍ではWT1遺伝子異常が高頻度に検出され、さまざまな奇形を合併する場合も多い。今回我々は、尿道下裂の経過観察中に両側性Wilms腫瘍が発見された2症例を経験したので、文献的考察とともに報告する。

10) 検査入院時の高血圧から発見された神経節芽腫の1女児例

○吉田 賢司、大谷 岳人、苑田輝一郎、菊永 佳織、佐藤 祐子、横井健太郎、山口 克彦、  
佐藤 裕、藤原 優子 (町田市民病院小児科)

低身長精査で紹介された2歳9か月女児。MRI目的の入院時に136/84mmHgと著明な高血圧を認めた。腹部造影CTで左腎動脈を圧排する腹部腫瘍を認め、内分泌検査の結果と併せて、腎動脈狭窄に伴う高血圧と診断した。高次医療機関で腫瘍生検を行い、最終的に神経節芽腫と診断された。血圧評価の重要性を再認識する1例であった。

指定発言 湯坐 有希(東京都立小児総合医療センター血液・腫瘍科)

11) Kasabach-Merritt現象に対するステロイド、ビンクリスチン併用療法の3例の治療経験

○池側 研人<sup>1)</sup>、鈴木 知子<sup>1)</sup>、斎藤 雄弥<sup>2)</sup>、松井 基浩<sup>2)</sup>、山岡 祥子<sup>2)</sup>、横川 裕一<sup>2)</sup>、  
湯坐 有希<sup>2)</sup>、山口 陽子<sup>1)</sup>、榎原 裕史<sup>1)</sup>、幡谷 浩史<sup>1)</sup>

(東京都立小児総合医療センター総合診療科)<sup>1)</sup>、(同 血液・腫瘍科)<sup>2)</sup>

従来治療に難渋していたKasabach-Merritt現象合併の血管性腫瘍に対する治療として、近年ステロイド、ビンクリスチン併用療法が確立している。今回、急性期に本療法が奏功し、ステロイド減量に伴い再燃を反復するも長期投与による大きな有害事象なく治療可能であった3例(2か月男児2例・女児1例)を経験したので報告する。

## 【運営委員会だより】

1. 第 634 回講話会（平成 29 年 2 月）のプログラム編成について報告がありました。
2. 第 634～635 回講話会の教育講演および感染症だよりについて、講師と座長が確認されました。
3. 次期会長に東京医科大学の河島尚志先生が承認されました。
4. 幹事会議題案について確認されました。
5. 平成 28 年度決算および平成 29 年度予算について確認されました。
6. 小児保健賞の候補者として山本光興先生、前田浩利先生が推薦されることが承認されました。
7. 次期プログラム委員は、慶應義塾大学が担当することになりました。
8. 東京都地方会で作成する「緊急時を念頭にしたメーリングリスト」について、これまでに 538 名（全会員の 23%）の登録があったことが報告されました。
9. 第 633 回講話会（1 月）の出席者は 353 名、ベビーシッタールーム利用者は 8 名、前回講話会以降の新入会者 20 名、退会者は 3 名、会費滞納退会者 82 名でした。

## 【演題の申し込みについてのお願い】

- ・ 動画が含まれる場合には、その旨を明示して下さい。
- ・ 原則として指定発言をつけて下さい。（共同演者から指定発言は頂けません）
- ・ 演題の締切は次のようにになります。
- ・ 運営委員会にて抄録の修正をさせて頂く事もございますので、原則としてご了承下さい。

講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切	講話会開催月	演題締切
平成29年1月	前年 11 月 30 日	2 月	前年 12 月 25 日	3 月	1 月 31 日
5 月	2 月 28 日	6 月	4 月 30 日	7 月	5 月 31 日
9 月	6 月 30 日	10 月	8 月 31 日	12 月	9 月 30 日

申込演題が規定数を上回った場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承下さい。

その場合、事務局よりご連絡します。

## 【演者の先生方へのお願い】

- ・ 一次抄録は 160 字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の 200 字以内を厳守くださるようお願い致します。（原稿はワード入力で e-mail にて事務局へお送り下さい。）
- ・ 出席した会員に発表の意味をより強く、明確に伝えるために、最後（または適切な時期）に Take Home Message（この発表から学ぶこと）を手短な一文で記したスライドを付け加えていただくようお願い致します。

## 【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- ・ 自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。
- ・ 退会される場合も必ずご連絡下さい。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp / FAX : 03 (5388) 5193

## 【事務局からのお知らせ】

- ・ 2 月講話会では書店が出展し、書籍の展示販売を行います。

## Presentationについて

発表は Computer Presentation (Windowsのみ可、Macは不可) のみで受け付けます。MacのPC持ち込みによる発表はご遠慮下さい。Powerpoint 2000以上で作成、Font 文字は Powerpoint 備え付けのみ。CD-R もしくは USB メモリーにて、第1、2 グループ発表者は午後1時30分までに、第3 グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルス check をお願い致します。

## 動画について

動画の発表にはトラブルが多いため、下記の方針をご理解いただきますようお願い致します。

- ① 一般演題での動画の使用はできる限りお控えいただくようにお願い致します。
- ② 動画の使用が不可避と考えられる場合、ファイルのセーブ法などの注意事項がありますので、学会事務局に必ず事前にご連絡下さい。
- ③ ②の場合にも、動画の映写にトラブルがあったときに備え、静止画像のみで構成された代替パワーポイントファイルをご用意下さい。当日、動画の映写が不可能と判断された場合には、代替パワーポイントファイルを用いて、時間通りに学会を進行させていただきますことをご了承下さい。

## 〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の1週間前までに問診票をダウンロードし、必要事項を記載の上、事務局へe-mailまたはFAXでお申し込み下さい。問診票は東京都地方会ホームページにございます。利用当日、お子様が好きな食べもの・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願い致します。連絡のないキャンセルの場合は、次回以降の利用をご遠慮頂く場合がございます。なお費用は学会が負担致します。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007/FAX 03-5388-5193  
e-mail : jpstokyo-office@umin.ac.jp

# 月刊誌「小児科臨床」のご案内

月刊誌「小児科臨床」は、1948年創刊以来一貫して小児科学の投稿誌としてのスタンスを守り、若い小児科医の研究発表の場として活用されています。

弊誌は増刊号を含めて年間13号を発刊し、小児医療・小児保健に関わる多くの先生方から、日常の臨床に役立つ雑誌としてご好評頂いております。



### 編集顧問

加藤精彦・早川浩

(第68巻2015年)

12号 特集

小児感染症 2015

—小児感染症のマネージメント—



(第69巻2016年)

4号 特集

小児慢性疾患の成人期移行の  
現状と問題点



増刊

Q&Aで学ぶ

小児の画像診断のポイント

12号 特集

子どもの事故・虐待



### 発 行

月刊(毎月20日発行・土日祝は繰り下げ)

Q&Aで学ぶ

小児の画像診断のポイント

### 定 價

普通号(年10回) 本体 2,600円+税

12号 特集

特集号(年2回) 本体 4,700円+税

子どもの事故・虐待

増刊号(年1回)

年間購読料(前納) 本体 41,600円+税

